

大宮まちづくり協議会代議員総会開催

大きく規約が改正されました

3月15日(日)に「大宮まちづくり協議会」の代議員総会が開催されました。新型コロナウイルスの関係で総会の延期も考えましたが、この会が終了しないと各自治会の総会に影響が出るため、予防をしながらの開催となりました。

令和元年度事業及び決算、令和2年度の事業計画及び予算が原案通り承認された後、規約改正が提案されました。規約改正の主なものは、次の2点です。

①代議員総会の廃止

代議員総会制を廃止し、住民総会制に変更する。

②部の統合と部員の削減

5つ部で活動していましたが、各自治会から10名の部員を出すのも困難であり、部を統合して3つの部に再編する。

以下のように改正されました。詳しくは、回覧での総会資料をご覧ください。

①代議員総会の廃止

住民による総会制となり、住民総会が議決機関となりました。なお、各世帯1票の議決権が与えられることになりました。また、住民総会の重要性が代議員から意見として出され、総会の条文が付け加えられました。

②部の統合と部員の削減

「総務・学習部」「防災部」「産業・福祉部」の3部となりました。なお、防災部員は各自治会の自衛消防団長が当たることになり、あとの2つの部員は、各自治会から2名ずつ選出することになりました。

なお、令和2年度・3年度の大宮まちづく協議会の会長には、代議員の決定により引き続き、田辺次良さん(折渡)となりました。

《お問合せ》

大宮地域振興センター



〒689-5531
鳥取県日野郡日南町印賀 1516
TEL・FAX (0859)87-0911

Mail: skn0400@town.nichinan.tottori.jp
satoyamaomiya@sea.chukai.ne.jp
blog: <http://blog.zige.jp/satoyamaomiya/>
“じげプロ”よりお入りください

編集・発行: 大宮まちづくり協議会 総務部

【編集デスク】

◆雪のない今シーズンでした。こんな冬は未だ過っていないことだとお年寄りもおっしゃいます。これから心配です。心配といえば、新型コロナウイルスです。幸いまだ、鳥取県からは患者が出ていません。

◆あっという間の2年が終わりました。「ふるさとだより」を年6回発行して来ましたが、本年度は5回となってしまいました。申し訳ありません。引き続き、ご愛読いただきますようお願いいたします。

◆梅も満開です。印賀土手の桜も早そうです。(青)

No.76

ふるさとだより

おおみや



これは、51年目を迎えた「菅沢ダム」である。ほぼ満水状態で、穏やかな春の日差しを受けて、水鳥が悠々と水面を泳いでいた。菅沢ダムは昭和43年春に完成した。県内で一番大きな多目的ダムである。ダム完成までには水没地区住民の犠牲と貢献があったことを忘れるわけにはいかない。水没したのは中原・本山地区の集落27戸、33世帯、148人。移転先は町内に9世帯、米子市内に18世帯、その他6世帯(日野、大阪、京都、兵庫、広島)であった。

貯水池である「日南湖」は多くの人々に親しまれ、4月の桜、5月の萌黄色の若葉とツツジ、秋の紅葉、冬の雪景色、四季折々に人々の憩いの場となっている。町外や県外の方々から、菅沢ダムのよさをインターネット上に掲載されておられるのを見ると、地元住民にはわからないことに気づかされる。

3枚の写真は、菅沢ダムで行われていた「湖畔マラソン」の写真である。昭和59年10月7日に第1回大会が310名の参加で実施された。一番多いときは1200名を超えた。平成16年の第29回大会を最後に終了した。

先進地視察研修の報告 その2

前号で、「サロン」と呼ばれる高齢者が集う場づくりについて報告いたしました。今号では、「地域交通」と「買い物支援」です。

地域交通は、どこも困っているところです。視察した2地区とも行政が車と保険料を出し、地域が運営している形態でした。

高齢者率60パーセントの大宮地区では、もうドアツードアを目指す地域交通を考えなければならなくなってきました。今後、まち協でも協議して行きたいと思えます。

2つ目は、「買い物」です。視察先では、高齢者が集まる機会に、鮮魚店に出店してもらったり、コンビニエンスストアに来てもらったりしていました。また、生活雑貨だけを販売していました。波多地区では、住民が商店を運営していました。

大宮地区でも、毎週商店に来てもらっていますが、買い物支援についても考えていく必要が出てきました。



鳥取大学とのワークショップ報告会

1月10日、午後6時30分から本年度の「鳥取大学連携ワークショップ報告会」を開催しました。本年度は約30名の地域みなさんにご参加いただき、ワークショップの報告や関係人口づくりの提案をしてくださいました。

特に、人口減少と高齢化により、地域の人材不足を解消するための「関係人口」を増やす取り組みの紹介があり、これからの大宮地区の取り組みに生かすことができる発表でした。学生の感想では、「自分たちの発表で、地域みなさんが議論し合う場面を見て、地域みなさんの大宮を愛する気持ちやこれからの大宮地域の活性化の一助になったのかな？」との感想をもらった。1時間の報告会が、約1時間近く延長するというかつてない熱の入った報告会でした。

報告会後には、緊張感もほぐれ、和やかに地域みなさんと交流会が行われた。この1年間お世話になった、筒井教授、むらおこし論受講の学生みなさんに厚く御礼申し上げます。



出身者とのワークショップ（9月）



住民とのワークショップ



ワークショップ報告会（1月）

青戸創志君(宝谷)「日本海新聞ふるさと大賞」に輝く

3月5日、「日本海新聞ふるさと大賞2019」のスポーツ功労賞に宝谷の青戸創志君（18歳）が選ばれ、日南町役場で表彰式が行われました。

青戸君は、県立米子工業高校バレーボール部主将としてチームをまとめ、6年ぶりにインターハイ出場を果たしたことが表彰の理由です。



青戸君は表彰後、「部員の団結はもちろんだが、家族や地域みなさんをはじめ、多くの方々に支えてもらった。これからは、部活動で培った力でこれからの人生にチャレンジしたい。」と感謝の言葉を述べました。

青戸君は4月から自宅から通勤して会社勤めをする計画であり、若者がこうして大宮に残ってくれることはとてもありがたいことです。大宮のまちづくりの一員としても期待するところです。

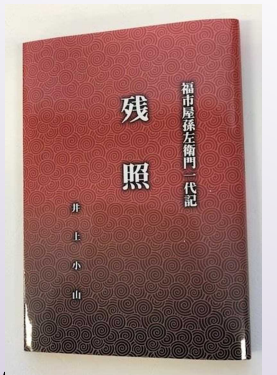
なお、表紙の湖畔マラソンで父親の武さんにおんぶされているのが青戸君です。

こんなに成長した青戸創志君がんばれ！！

「青砥孫左衛門一代記 残照」刊行

3月、井上輝之さんが「青砥孫左衛門一代記 残照」を出版されました。「印賀鋼」というブランドで売り出し、一躍全国に「印賀鋼」を世に送り出した人物が「青砥孫左衛門」です。その青砥孫左衛門の一生を古文書を通して史実にのっとり、あるいは、史実のない部分は、筆者の想像で描かれています。

井上輝之さんから、地域みなさんをはじめ、ふるさとだよりの読者のみなさんに、ご要望があれば、差し上げたいというお話をいただいています。希望される方は、大宮地域振興センターへお電話、FAX、メール等でお知らせください。なお、先着順とさせていただきますのでご容赦ください。



絵手紙教室開催

2月16日、まち協学習部主催の絵手紙教室が行われました。参加者は野菜や花など自分が描きたいものを持参し、講師の青戸迪子さんに教わりながら作品にしていきました。絵が出来上がると、好きな言葉や、相手に伝えたい思いなどを書き込み、世界に一つしかない絵手紙が完成しました。参加したみなさんは出来あがった作品を手に、とても満足した様子でした。



参加したみなさんは出来あがった作品を手に、とても満足した様子でした。

本年度の学習部主催の生涯学習講座はこれを最後に終了しました。1年間各講座に参加いただきましたみなさまに感謝申し上げます。